

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・名大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。 ・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は名古屋大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。 						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイオノロジー、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；がんと共生：がんサバイバルシップ、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん遺伝子パネル検査エキスパートパネル（EP）参加とEP報告書作成、高齢者機能評価実習、遺伝カウンセリング「つるまい遺伝塾」陪席、神経ブロック体験（シミュレーター使用）、免疫組織化学染色実習（研究用装置使用）、外来化学療法室運用・レジメン管理実習、放射性同位元素の取扱実習（放射線管理システム設置下の放射線管理区域内）等。</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんと共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。 ・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ポストコトの状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。 ・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。 ・実習は本学の医療資源やニーズに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。 						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を8名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						